

しゅわ れきし 手話の歴史



ろう（あ）^{しゃ あつ}者が集まるところでは、^{なか つう げんご}その中で通じる言語として
「手話」^{しゅわ つか}が使われるようになりました。^{にほん めいじ ねん}日本では、明治11年に
^{さいしょ がっこう みみ き かた がっこう たんじょう}最初のろう学校（耳が聞こえない方の学校）が誕生しました。そ
^{ご かくち がっこう たんじょう しゅわ きょういく おこな}の後、各地でろう学校が誕生し、手話で教育が行われていました。
^{ご ぐち うご よ と ただ はつおん くんれん}しかし、その後、口の動きを読み取ったり、正しい発音を訓練
^{にほんご み めざ こうわきょういく}したりすることで日本語を身につけることを目指す「口話教育」
^{か がっこうきょういく ば しゅわ きんし しゅわ みと}に変わると、学校教育の場での手話は禁止され、手話もあまり認
められませんでした。

^{じき へ しょうわ ねん こうせいしょう げんざい こうせいろう}そのような時期を経て、昭和45年には厚生省（現在の厚生労働省）
^{どうしょう しゅわ ほうし いん ようせい じぎょう はじ へいせい ねん もんぶ しょう}による手話奉仕員*養成事業が始まり、平成5年には文部省
^{げんざい もんぶ かがくしょう しゅわ きょういく みと はじ いま}（現在の文部科学省）が手話での教育を認め始めました。今では、
^{がっこう ちょうかくそうごう しえんがっこう しゅわ まな じかん もう}ろう学校・聴覚総合支援学校でも、手話を学ぶ時間が設けられて
います。

^{しゅわ ほうし いん しゅわ にちじょうかいわ}※手話奉仕員…手話で日常会話のできるボランティアのこと